

多様な魚類繁殖場をめざした植栽技術開発

太田 滋規

◆背景・目的

コイ科魚類の産卵や発育場所の造成を目的にヨシ植栽による産卵繁殖場の造成を行っているが、本来のヨシ帯はヨシを中心としてマコモやヤナギ、多種の水草で構成される植物群落（ヨシ群落）を形成し、そこには、多種多様な生物が生息していた。そこで、ヤナギやマコモ等の自然のヨシ群落を形成する植物に着目し、その機能や植栽方法を検討する。

◆成果の内容・特徴

- ・ヤナギは、ホンモロコの産卵場となることを想定して、ヨシ帯造成地先端部の波あたりの強い土留めの石積みに170本の植栽を行ったところ、169本が発根し、162本が枝を伸ばし生長した。
- ・マコモは、造成ヨシ帯と湖岸の間にできたクリーク状の水面にポット苗を竹串で底泥に固定して、1,000ポット228㎡の植栽を行った。
- ・試験区後背地水田から流下したニゴロブナ稚魚の試験区利用状況調査を行った。試験区内での採捕調査では、水田育成魚は植栽区では1尾、対照区では7尾が再捕され、水田流下ニゴロブナがヨシ帯造成地を利用していることが確認できた。

◆成果の活用・留意点

- ・今後、ヤナギ、マコモの試験植栽後の繁茂状況や産卵状況等の追跡調査や周辺水田育成ニゴロブナのヨシ帯利用状況調査を継続して植栽の効果把握を行い、これまでのヨシのみの植栽によるヨシ帯造成に加えて、新たな視点からの増殖場造成に反映させる。



ヤナギの植栽



マコモの植栽

* 本報告は水産庁による平成18年度湖沼の漁場改善技術開発委託事業の成果の一部である。